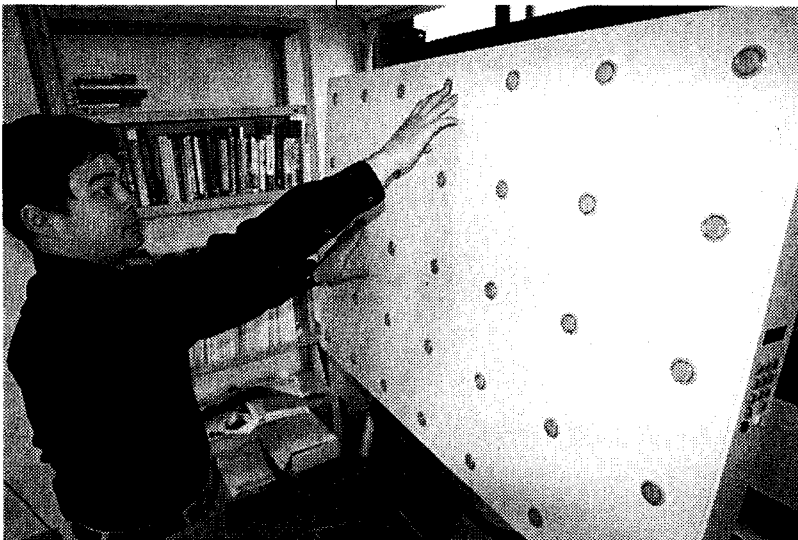


視力1.0に本が読めない！

「もぐらたたき」トレーニングは視野を広げ、手と目を連動させる効果があるという—神戸市中央区で



斜視を疑われたが、視力は両目とも1・5。小学校に入り、担任から「黒板の字を写していない」と言われた。ギョッと目をつぶっ

て授業の内容を暗記しようとしていた。去年11月、神戸市中央区の視機能トレーニングセンター「Joy Vision」を訪ねた。「眼球運動に問題がある」と指摘された。寄り目ができない、動くものを目だけで追うことが難しい、などだ。1日30分のトレーニングを課され、2ヵ月後、行を飛ばさずに教科書が読めるようになった

黒板ははつきり見えるのに教科書の字が二重に見える。音読で行をこぼしてしまう。こんな子どもが増えている。近くを見る視力の低下や視機能の障害が原因らしい。メガネをかけたがり、簡単なトレーニングをしたりすれば、数ヵ月で改善するという。

子どもの視機能障害に注意

東京都武蔵野市の医師(42)は2年前、長男(7)の目の異変に気づいた。運動神経は悪くないのに、大縄とびに入ることができない。マツチ棒で迷路を作る遊びでは、目をこすったり、片方を隠したり。

て授業の内容を暗記しようとしていた。去年11月、神戸市中央区

検査で発見、訓練で回復も

■視機能チェックリスト■

- ・両眼が外によったり内によったりして同じ方向を見ていないことがある。
- ・近くを見る作業をいやがったり避けることがある。
- ・近くを見ている時に頭を傾けたり、一方の眼を隠したりして、1つの眼だけで見ようとする。
- ・読んだり書いたりするときに、頭を本やノートに非常に近づける。
- ・まばたきや、眼をこすって細めて見ようとするなどがある。
- ・読む時に頭が動く。
- ・1つの物が2つに見えることがある。
- ・読んだことをよく理解していない。
- ・似たような字を間違える。
- ・書くこと、ボール運動などが苦手。
- ・図形の問題が苦手。
- ・小学2年生以上で、左右の認識がはっきりしない。

た。この男児の検査を担当した北出勝也さん(31)は、アメリカで、視機能を検査するオプトメトリストの資格を取り、2年前から検査と指導をしている。年70〜80人が訪れる。「視力がよくても、眼球運動やピント合わせの力が弱かったり、図形が判別できないなど脳で認識する力が弱かったりと、視機能に問題がある人は意外に多い」と話す。

も、転びやすい、本が読めないなどの問題が残ることがある。目と体が連動するように、神経系をつなぎ直すことも大切だ

電光掲示板の光る部分を手で押さえる「もぐらたたき」や、鉛筆を顔に近づけて目を寄せるなどのトレーニングにより、半年ほどで改善する、という。

現在の学校保健法では、5歳の距離で測る視力検査しか義務づけられていない。高橋教授は「目が悪いだけなのに、運動神経や学力が劣ると思っっている子は多い。近見視力検査や高学年に対する機械による屈折率検査をぜひ義務づけてほしい」と話している。

名古屋市中区の特別視機能研究所のオプトメトリストの内藤貴雄さん(48)は5年前、テレビ番組で紹介された、「視機能を検査して欲しい」というファクスを400通受け取った。6割が学習障害児の親からだった。「斜視の手術などで、視力の問題が解消した後

も、転びやすい、本が読めないなどの問題が残ることがある。目と体が連動するように、神経系をつなぎ直すことも大切だ

桃山学院大学の高橋ひとみ教授(健康教育)は10年前から、大阪府河内長野市の小学校2校で、「近見視力検査」をしている。

通常の視力検査に使うランドルト環を50分の3に縮小した検査表を、目から30センチで視力を測る。96年に1040人を調べたところ、視力1・0未満が31・3%、0・7未満が14・8%を占めた。0・7未満では高学年の教科書のルビがかすんで見える。

通常の視力検査に使うランドルト環を50分の3に縮小した検査表を、目から30センチで視力を測る。96年に1040人を調べたところ、視力1・0未満が31・3%、0・7未満が14・8%を占めた。0・7未満では高学年の教科書のルビがかすんで見える。

通常の視力検査に使うランドルト環を50分の3に縮小した検査表を、目から30センチで視力を測る。96年に1040人を調べたところ、視力1・0未満が31・3%、0・7未満が14・8%を占めた。0・7未満では高学年の教科書のルビがかすんで見える。